

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 年 月 日

事業所名

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	0	・活動室、遊戯室、個別対応室を分けている。	・今後もスペースの工夫やお子様の特性に応じて部屋を分け、そして指導員をどの部屋にも配置することで安全面に考慮しながら対応していく。
	2 職員の配置数は適切である	4	1	0	・午前中の情報共有や活動の準備は手厚く行っている。	・加算要件を満たす人員配置を行なっているが、送迎時について手薄になる時間帯があるため、職員の配置増を検討する。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	1	3		・利用者に応じ、手すりを早急に設置する。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	3	0	・スタッフミーティングを行い良かった点と改善点を話し合い次の活動にいかしている。	・今後も職員ミーティングを充実させ、職員の意見を反映していきよう努めていく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	1	0	・保護者の要望等はその日で全職員に情報共有し、対応策を考えている。 ・アンケート結果を全職員で情報を共有し、改善点を話し合い支援の質の向上を図っていく。	・ご家族からのアンケートを活用し、業務改善に努めていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	4	0	・HPを作成した。	・HPを作成したが、広く周知できていないため、更新の際にお知らせしていく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2	0	・第三者委員は開所前から配置している。	・第三者委員は開所前から配置しているが、保護者への伝達が不十分であったため、文書にて知らせる。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1	1	・各部委員会を設置し全員が参加する。	・委員会発足後間もないため、体制を整えていく。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	0	・本児にあった支援が提供できるよう、会議を設けている。	・本人、家族、学校等の意見やニーズを確認し、ニーズに沿った支援を検討し、計画を作成していく。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	2	0	・利用児童にあった支援や療育が提供できるよう、会議を儲けている。	・必要なアセスメントツールを適宜組み合わせ使用していく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	3	2	0	・利用者が、楽しみながら学べる活動を取り入れている。	・活動後に評価を行うことで、次の活動に繋げている。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	0	・子ども達の意見を聞き、取り入れている。	・日々の活動プログラムを設定し、見直しを持った活動参加ができるよう配慮していく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	0	0	・土曜日や長期休暇中は、普段体験できないような活動を企画して実施している。	・利用者、保護者にやりたい活動、やって欲しい活動を聞き取りする。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	1	0	・個別活動と集団活動それぞれのメリット・デメリットを踏まえた上で、支援計画の作成に努めている。	・本人、ご家族の意見やニーズを確認し、ニーズに沿った支援や療育を検討し、計画を作成する。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	2	0	・朝礼時に1日の流れを話し合い、職員ラインで共有している。	・今後も継続していく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	2	0	・その日の出来事や要望は、その場で職員間で共有できるよう、職員間限定のSNSを活用している。	・継続して行う。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	1	0	・気になったこと、活動内容をその場で記入し、全体で把握できるようにしている。	・継続して行う。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	0	・6か月に1度、支援計画の見直しを行っている。	・子供の状態の変化や保護者のニーズを適宜取り入れられるように努めていく。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5	0	0	・ガイドラインの読み合わせ。	・支援ガイドラインについて職員の理解を深められるように研修会などを実施し、さらなる充実を図りたい。	

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	0	・可能な限り参加できるよう、調整している。	・会議が重なり参加できないこともあったので、事前に調整を行い、可能な限り参加できるようにしていきたい。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	0	0	・送迎の変更等があった場合は、速やかに連絡するよう呼びかけている。 ・学校HPの確認。 ・学校からの公文の確認。	・確認ミスがないよう学校HP、保護者ライン、学校からの公文を全職員で確認していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	2	0	・準備中	・6年度に受け入れ予定なので、配置予定の看護師と情報を共有しながら準備を進めていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	0	1	・保護者や相談員を通して、状況の把握を行っている。	・必要であれば、直接話しを伺い児童の把握していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	3	0	・必要に応じて、移行先への情報提供等の支援を行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3	0		・発達障害者支援センター等が主催する研修会等に参加できるように努めていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	0	0	・近隣学童、近隣公園で地域の児童たちと交流できるよう活動を配慮した。	・地域で実施されるイベントを把握するとともに、計画・実施できるか提案していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	4	1		・事業所としてどう参加していくか、前向きに検討していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	0	・保護者連絡用公式ラインの活用。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	3	0	・心理士によるカウンセリングや勉強会の実施。	・保護者向けペアレント・トレーニングのプログラムは行っていないが、フィードバック時に対応方法などアドバイスの機会を設けている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	1	0	・契約時に個別に説明するとともに、重要事項等は事業所内に掲示してお伝えしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	0	・公式ラインにて気軽に相談できる体制を整えている。	・現在まで苦情はないが、苦情の有無に関して周知する。苦情があった場合は、管理者を中心に迅速かつ丁寧に対応していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1	0	・月に1～2回、保護者ユニタク会を設けている。	・継続して行う。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	0	・SNSを活用し、気軽に相談できるようにしている。苦情がある時は、管理者を中心に迅速に対処するとともに、別途時間を設けて話を聞くなどの対応をしている。	・継続して行う。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	2	0	・SNSを活用し、その日の様子はこまめに発信している。	・継続して行う。
	35	個人情報に十分注意している	5	0	0	・職員、保護者に守秘義務の同意を得ている。	・個人情報記載された書類の管理方法について職員間で再度話し合う。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	1	0	・子どもや保護者の特性について職員間で共有している。	・わかりやすい伝達方法を工夫したり、伝わる方法を利用者や保護者に合わせるようにしていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	2	0	・同地区の自治会に加入	・地域の中の事業所として可能な形で開かれた事業運営に努める。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	1	1	・各委員会発足時に読み合わせを行っている。	・全ての保護者に周知する事ができていないため、今後周知の仕方について検討する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	0	・毎月の訓練実施に切り替えた。	・全利用者に訓練の実施が行えるよう毎月実施しているが、送迎中のシチュエーションも想定する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	3	1	・委員会を設置し、毎月話し合っている。	・外部の研修に参加したり、内部でも定期的な勉強会の開催を行う。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	1	1	・放課後等デイサービス計画書に記載している。	・緊急を要する場合に、必要な条件を満たしているか職員の共通認識を確認しておく。行なった場合は記録として残す。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1	1	・保護者に事前に確認している。	・継続して行う。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	1	2	2	・危険な事例があった場合、報告書に記載し職員で共有している。	・ヒヤリハット事例集の定期的な見直しを行う。